

これに賭ける

# 四国企業のNEXT



塚田浩之専務

十月、パルコが同社最大となる浦和店(さいたま市)を開業した。同店に入居するパスタ料理専門店は、古い日本家屋を現代風にアレンジした内装が人気を集め、若者客を中心ににぎわう。柱や壁に使われたのは四国の古民家を解体して回収した「古材」。「香川に行けばいい古材が見つかる」。店舗設計業界にこう言わせたいのが塚田木材(香川県坂出市)だ。

「古材を売り始め今年で四年。年々引き合いが増え、販売先は東京・大阪が七割を占めるまでになった」。古材販売事業を取り仕切る塚田浩之専務は感慨深げ

「古いものになると百年以上家屋として使われた四国の古材は、塚田木材を経由して各地の内装建築に取り込まれ、この先も生き続ける。」

ここ数年、日本建築がブームだ。京都や金沢など古い町家が残る都市では、商家やお茶屋を改造したレスプラン、インテリアショップがごく当たり前の風景になった。

一方で東京や大阪は古い日本建築自体が少ない。そ

## 塚田木材 古材使う建築企画

### 《会社概要》

所在地	香川県坂出市富士見町1-2 -19
電話	0877・46・2775
売上高	非公表
社員	6人
事業内容	材木卸、古材の販売、古材利用建築の企画



古い戸板が持つ木目の美しさが付加価値になる

七〇年代以降、ハウスメーカーの台頭とともに日本家屋向けの製材は衰退。材木卸として生き延びるしかなかった。年々縮小する事業。その間、塚田専務は大阪大学工学部に顧客開拓を進める。浦和

パルコに代表される飲食店など店舗のインテリア向け

塚田木材は独自に顧客開拓を進める。浦和パルコに代表される飲食店など店舗のインテリア向け

塚田専務は「地元古材は地元で使ってほしい気持ちもある」と語る。現在、売上高の大部分は四国外への古材販売が占める。

次の一手として考えたのが賃貸住宅の内装への応用だ。四国でも高松市や松山市は賃貸住宅の新・改築が盛ん。物件の魅力を高めて差異化する方法として古材をさりげなく使う内装の需要を開拓する。

## 賃貸住宅向け強化 設計事務所など協力先を拡大

ここで注目されるようになったのが四国のような地方の古民家を解体した時に出る古材の内装への活用だ。かつては廃棄物扱いだった古材。需要が生まれたことで、利用価値のある梁(はり)や柱は材質や木目の美しさ

「実家の家業を再生するの営業という木材とはほど遠い仕事に就いた。しかし六年前、実家に戻り、家の伝統を守りながら手掛ける新規事業を探し始めた。工務店を供給先にして古材流通をさらに活性化さ

に「実家の家業を再生するの営業という木材とはほど遠い仕事に就いた。しかし六年前、実家に戻り、家の伝統を守りながら手掛ける新規事業を探し始めた。工務店を供給先にして古材流通をさらに活性化さ

に「実家の家業を再生するの営業という木材とはほど遠い仕事に就いた。しかし六年前、実家に戻り、家の伝統を守りながら手掛ける新規事業を探し始めた。工務店を供給先にして古材流通をさらに活性化さ

四国

